

カーネーションの新技术導入による生産振興と販売戦略

活動期間：令和5年度

○ 取組の背景

賀茂郡東伊豆町および河津町を中心とする、カーネーション栽培は、安定出荷および高い切り花品質により市場等の評価も高いが、資材費および暖房費等生産コストの増加が経営を圧迫している。

コロナ禍によるイベント需要の減少、輸入品との競争など取り巻く環境は厳しく、産出額、生産者数とも減少、後継者等の担い手がいない高齢経営者もあり、常に新しい取り組みの導入が必要である。



図 静岡県における花きおよびカーネーションの農業産出額の推移 暦年（西暦）

○ 課題・目標

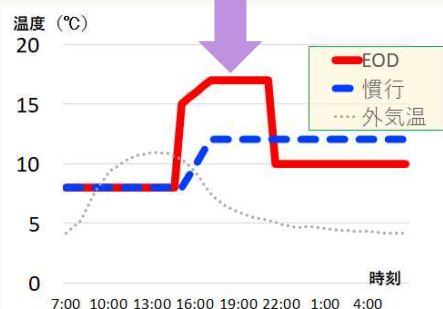
課題	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・重油代・資材費の高騰（収益の低下） 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位面積（株）当たり収量増加 ・管理費の低コスト化
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模施設点在による、管理労力負担 ・時期による労力の偏り 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理労力の省力化 ・労働力の平準化
<ul style="list-style-type: none"> ・市場単価の変動による収益への影響 ・イベント需要の低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな販路開拓 ・新商品開発 ・ブランド化

普及指導員の活動

○ 推進方向 1 「生産性を向上させる新技术の導入・普及」

- EOD (End of Day) Heating（日没後昇温）技術の導入を図り現地における増収効果を検証する
- LED照射による生育促進技術を現地検証し、適切な処理条件を明らかにし、現地への普及を図る
- EOD-HeatingとLED照射を組合せた冬季環境管理法を提案・実証し、品質および収量を低下させない、低コスト化管理技術を確立する

日没後数時間を通常温度より高く設定



EOD-Heatingの概要

普及指導員の活動

○推進方向2 「環境モニタリングおよび省力化技術の導入」

- 既存施設の状況調査、施設更新の必要性確認
省力化技術導入及び新規施設整備の支援実施
- 温室環境確認（モニタリング）機器及び遠隔操作機器の導入を推進し、効果を検証
- 栽培環境データの産地間での情報共有及び、
環境モニタリング機器の効率的運用の研修会開催



環境モニタリング運用に関するデジタル化研修会

○推進方向3 「新たな販売需要の創出」

- 新商品開発の支援を行う
- ブランド化に向けた生産者団体
「伊豆花人（はなびと）」の活動と
持続的農業に向けた公的機関認証の支援を行う



伊豆花人のブランド化を推進する技術情報交換

具体的な成果

○「生産性を向上させる新技術の導入・普及」

■EOD-Heating

株当たり収穫本数が0.3~0.5本程度増加
重油使用量 慣行と同等を実証
現地140aで技術導入の実績

■LED照射

現地実証により生育促進効果を確認
LED照射導入（4件）

表 LED照射がカーネーション切り花生産に及ぼす影響

光源	採花本数	到花日数	切り花重	日持ち日数
白	増（12月以降）	短縮化	増加	増加
赤	増（12月以降）	短縮化	増加	増加



LED照射施設とLED光源

○「環境モニタリングおよび省力化技術の導入」

■施設園芸大国しずおか構造改革緊急対策事業

（県事業）を利用した温室整備（1件）

■老朽化施設の新規施設への更新（1件）

■環境モニタリング機器「はかる蔵」導入

（4戸）

■遠隔操作機器「うご蔵」導入（1戸）



県事業で設置した新規施設



環境モニタリング装置と制御装置

○「新たな販売需要の創出」

■新商品、「3Cフラワーボックス」を開発

（販売額 143千円）

【3C：Clean（清潔）、
Compact（省スペース）、
Convenience（手入れ不要）
を意味する造語】

■「ふじのくにSDGs認証：持続的な農業を実施する生産者」を取得（伊豆花人会員の1経営体）



3Cフラワーボックス

ふじのくにSDGs認証